

健康と光線

慢性肝炎の診断と治療

慢性肝炎の診断と治療は、近年になって大きく変容しました。中でも慢性肝炎の原因としてベールに閉ざされていた非A非B型肝炎が、1988年にC型肝炎として姿を現してから、慢性肝炎の95%はB型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスのようなウイルスの持続感染によって発病し、わが国は諸外国と比べてC型肝炎の比率が高く患者の半数以上を占め、その上、C型肝炎は罹患年数が30年以上になると肝硬変から肝細胞癌に移行する確率が高いことが明らかになりました。

そのためウイルスを除去する抗ウイルス効果のあるインターフェロンによる治療が根治療法として期待され広く用いられています。しかしC型肝炎のウイ

ルス除去率はおよそ3割強に止まり、治療抵抗性のウイルス性肝炎の存在、インターフェロンの多彩で重い副作用が問題になっています。このような背景から、ウイルスによる慢性肝炎の先行きに不安を抱く患者が多く、医療相談を受けることが増えましたが、それに伴いサナモア光線療法を治療に取り入れる方も増加しました。

慢性肝炎の治療の基本

慢性肝炎は臨床的に他覚所見から活動型と非活動型に分類され、治療により相互に移行しますが、特に活動型の慢性肝炎の治療で薬物療法に先行して基本的に大事なことに安静と食事（高タンパク・高ビタミン食）があります。一般的に慢性肝炎が活動型と診断されると入院を勧められますが、インターフェロン療法のような薬物療

法を行つただけでなく、臥床安静には肝障害のため低下した肝臓を循環する血流量を増して病状の改善を助ける効果があり、また食欲不振があれば補液（点滴）で栄養を補給する必要があるためです。なおタンパク質の摂取は肝細胞の再生に欠かせないものです。

慢性肝炎が活動型でなく非活動型でも安静は大事ですが、現実には社会生活を営まなければなりません。その際、日々、サナモア光

発行所
〒153-0063
東京都目黒区目黒
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行
会費年500円
電話 東京(03)
3793-5281
3712-5322

慢性肝炎の治療

—基本的に大事なこと—

サナモア光線協会
サナモア中央診療所
医学博士 宇都宮 光明

抗ウイルス効果が期待できる免疫力の強化

サナモア光線療法をしていると、経験的に風邪を引かないと言つ方は大勢いますが、免疫機構に作用して抗ウイルス効果を高めるためです。同様な効果は、サナモアを慢性ウイルス性肝炎の治療に使っている人の中にも見受けられます。すなわち肝機能検査で肝炎ウイルス量を反映するGOT、GPTが数ヶ月の治療後に下がったことを報告してくれる人は少なくありませんし、中には正常範囲になつ

線療法を治療に併用しますと、肝臓を流れる血液量の一層の増加を促し、物質代謝を高めて肝細胞の再生を促進しますので、あらゆる肝障害の治療に有用な作用を及ぼします。言うまでもなく、過労を避け、良質のタンパク質を摂り、アルコール飲料の摂取は極力ひかえる等の養生も常に求められます。

臨床的治癒を目標に

た例もあります。このようにサナモア光線療法には抗ウイルス効果があり、肝炎ウイルスによる肝細胞の破壊（壊死）を最小限に止め、一方で肝細胞の再生力を高める効果がありますので、慢性肝炎が活動型に移行するのを予防すると共に進展を抑制する効果が期待できるのです。

慢性肝炎の治療の目的は、肝硬変、肝細胞癌への進展阻止にあります。既述したように未だ満足できる結果は得られておりません。そのためサナモア光線療法を治療に併用する方は増えましたが、サナモア光線療法の個体に具わった治癒力を高めて肝臓を庇護する作用で、肝炎に伴う炎症（活動性）を抑え、肝機能検査の値を持続的に改善させ、臨床的治癒の状態に近づけることを目標に治療して頂いた結果、目標に合う症例が決して少なくないことを述べました。なおこの際、最も肝要なことは、サナモア光線療法を使い続けることは言うまでもありません。

一病息災

一病息災

腰部脊柱管狭窄症

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

病気の解説

整形外科外来において、腰痛を主訴とする患者は極めて多く、厚生省の統計では、65歳以上の人口千人あたり、男性で83人、女性で248人が、腰痛を訴え、最も多い主訴とされています。腰痛の原因は多種多様ですが、高齢者の場合、特に、加齢にともなう脊柱の退行性変化が強く影響します。退行性変化は、脊柱を構成する椎骨、椎間板、椎間関節、靱帯、脊柱筋などのい

ずれにも生じ、腰椎疾患を複雑に修飾しており、このことが、高齢者の腰痛の治療を困難なものとする一因になっています。腰部脊柱管狭窄症は、骨粗しょう症や脊椎すべり症など、いずれの疾患が根本にあったとしても、最終的に到達する腰椎疾患の終末像で、腰痛、下肢痛、下肢のしびれ、間欠性跛行、下肢筋力減弱、下肢関節屈曲（こわ縮）などを呈します。本症例にも見られる間欠性跛行は、特徴的

病気の重程度により異なりま

立、歩行により下肢に疼痛、脱力、しびれをきたし、起立、歩行の継続が困難となり、数分間休息した後に軽快するという症状です。もし、50m程度の歩行でこの症状が出現するなら、重症と考えられますが、腰痛に加えて、間欠性跛行や下肢のしびれなどを認めた場合には、下肢に分布する馬尾神経に病変がおよんでいることを示唆します。

症例：67歳、女性

主訴：腰痛。右大腿背側の痛みとしびれ。間欠性跛行。

起始・経過：2年前から、腰痛および右大腿背側の痛みとしびれを自覚。症状は徐々に増強し、歩行時には杖が必要で、間欠性跛行（休み休みでないと歩けない状態）となった。このため1年前から、近医ペインクリニック科にて、週に1回、腰部に神経ブロックを行ってきたが、鎮痛効果が持続しないため、知人の紹介で来院した。

治療：左側臥位にて50分、5灯照射を施行。腰部(BD)、大腿背側部(BD)、足裏(AB)を照射すると同時に、膝関節(AB)を2灯で前面から照射。

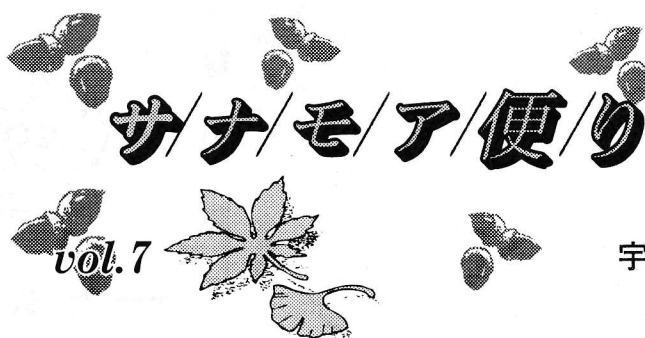
経過：週に3回のペースで治療を開始。10回終了後より、徐々に痛みが軽くなり、25回終了時には、自宅から治療院まで、徒歩で約20分の距離を、休まずに通えるようになった。この頃には、神経ブロックを行わなくても、日常生活に支障を感じることはなく、40回終了時点で、痛みもほとんど消失した。現在、時々、来院するが、良好に経過している。

すが、サナモア光線療法の深部温熱・鎮痛作用により、早ければ数回の治療で、確実に痛みが和らぎます。ただし、神経根部の圧迫が強く、下肢の神経症状が長期間にわたる場合などは、最低でも三か月の治療が必要となります。治療により痛みが軽減したなら、腹筋、背筋や下肢筋の廃用性萎縮を予防するために、適度な運動を心がけてください。また、光線療法において特筆すべきは、他の物理療法と異なり、ビタミンDを介して骨を丈夫にする作用がある点で、一時的な鎮痛効果のみでなく、病気を根本から治す治療法と言えるのです。

腰痛や随伴する症状を、年だからしょうがないと思ひ込んでいる方も多いことと思います。何せ、病院でそのように言われるのですから、仕方のないことですが、決してあきらめてはいけません。現に、いくら、腰痛の患者が多いと言っても、腰痛のない方もたくさんいるのです。腰痛でお悩みの方は、是非、一度、光線療法を試してみてください。

サナモア光線治療院
開院から一周年

昨年九月一日に開院した治療院も、無事、一周年を迎えることができました。この間、多く



宇都宮 正範

11月16日(金) 午前11時～午後5時
11月17日(土) 午前10時～午後5時
11月30日(金) 午前11時～午後5時
12月1日(土) 午前10時～午後5時

第五期サナモア光線治療師養成講座を、秋に東京にて開講します。本年最後の開講となりますので、ご希望の方は、お早めにご連絡下さい。

第五期 サナモア光線治療師 養成講座開講のご案内

のサナモアご愛用者の方にお越し頂き、ご支援頂きましたことには、スタッフ一同、大変感謝致しております。これからもサナモア光線療法の啓蒙、普及に、一層、尽力する所存でおりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

第七回「光と熱研究会」のお知らせ

医療に関連した話題の講演や治療例の報告を中心とした研究会を開催していますので、一般のサナモアご愛用者の方も是非ご参加下さい。なお参加は無料です。

日時：十月二十日(土) 午後二時
場所：サナモア光線治療院
三階会議室

治療院紹介

育美健康光線療研 (写真)

電話：〇九二一五七二一五七三
〇九二一五八一二〇三九

住所：福岡県春日市

桜ヶ丘八一三

院長：山崎いく子先生

一言：亡き母の代から先代宇都宮義真先生に師事し、現在

は、宇都宮光明先生と正範先生のご指導、ご後援を頂き、ご愛用者の方の暖かいご支援のもと、光線治療および治療器とカーボンの販売を正業と



山崎いく子先生御夫妻

して、約半世紀にわたり、光線療法の普及に努めております。現在は、特に医師から治療困難と診断

◆ 募 集 ◆

サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720

サナモア体験記募集

サナモアの効果は体験しないと信じられないところがありますが、実際に効果を体験した体験記ほど説得力のあるものではありません。ついては体験記をお送りください。ますます、お願いいたします。

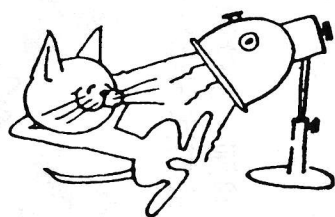
された患者さんの光線治療と在宅光線治療を続ける患者さんの心身のケアおよび治療器のメンテナンスを致しております。治療は予約制で、電話でのご相談は、常時受けております。

☆緑内障

症例 55歳 男性 会社員

症状 最近眼精疲労、目のかすみを自覚し、新聞の文字が読み取りにくくなってきた。健診にて、緑内障の疑いがあることを指摘された。近医眼科にて精査したところ、眼圧は高く(30 mm Hg)、視野狭窄が認められるため、慢性緑内障と診断され、点眼薬と内服薬を処方された。弟に相談し、サナモア光線療法を勧められたため来所した。

療法経過 最初に眼部に、A Dカーボンにて、集光器を用い、閉眼した状態で、温かく気持ちの良い距離を保ち20分行い、次に、後頭部を同様に20分照射した。その後、A Bカーボンにて、



治験例報告

腹、背、腰、膝、足裏に各10分照射した。在宅光線治療は、眼部と後頭部を中心に、できれば、

朝晩、二回照射するように指示。一週間後、明らかに自覚できる

程、目のかすみが改善し、三週間後には、眼圧は低下し、視野

狭窄の進行はみられないと言われた。さらに、四か月後には、眼圧は正常に近い値まで低下し、

視野も医師の見込み以上に改善していると言われた。この頃には、不快に感じられていた目の

かすみもほぼ軽快、物を見る苦痛から開放された。今後も光線治療を続けると言って、仕事に

復帰した。

神戸市 ウエノ光線療研
上野 健太郎氏報告
TEL 〇七八ー三三三ー二五八

☆尋常性乾癬

症例 53歳 男性

症状 約三か月前から、頭が痒く、フケが多くなったことに気づき、その後、頭、顔、股関節、肘関節など全身に赤くもりあがった発疹ができ、強い痒みのため不眠となった。病院にて、尋常性乾癬と診断され、塗布薬を使用した効果がなかったため来所した。

療法経過 塗布薬の使用を中止してから、治療法を指示した。

☆薬疹

症例 74歳 女性 主婦

症状 身体に掻痒感を認めたため、近医を受診したところ、痒みに対する薬を処方された。内服開始後から、徐々に、身体に熱感を認め、全身に痒みを伴う発疹が出現し、手掌や

足底の皮膚が一部剥離した。その後、他の部位の皮膚にも同様の症状が出現してきたため、知人の紹介にて来所した。

療法経過 四灯照射法にて開始。カーボンはA AとB DとA Bを適宜使用した。最初は側臥位にて、腹と足裏30分、後頭部15分、膝裏15分を同時に照射。仰臥位に変更後、右

顔面、左胸、右腰、左膝側面、右足関節に同時に15分照射。

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持たせませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

(株)東京光線療法学研究所

ACカーボンを使用し、頭部(頭頂、側頭、後頭)、顔面、両股関節、両肘関節、その他全身の乾癬部に対して、各30分以上

その後、左顔面、右胸、左腰、右膝側面、左足関節に15分同時に照射した。治療は連日行ったが、二日目から、発疹が

軽減し、三日目より食欲も回復、十分睡眠できるようになった。表皮の剥離した部分も改善してきたので、七日間で当院での治療は終了し、今後は在宅治療を続けるように指導した。

川崎市 東京光線療研
海渡 一三三氏報告
TEL 〇四四ー七三二ー五〇六七

痒みが止まるまで照射し、次にA Bカーボンにて、足裏、膝、腹、腰を各部20分照射するよう指示。一週間後、電話連絡にて、顔面の表皮がむけてみつともないとの連絡を受けたので、辛抱強く続けるように指示。また当院において、多灯照射も並行して施行したが、二回終了時に、乾癬部の赤みは消失し、痒みも頭部以外ほとんどなくなり、三回終了時には、顔面はとてもきれいになり、他の病変もほぼ軽快した。今後も、再発防止のため、光線治療を続けるよう指示した。

福岡県春日市 育美健康光線療研
山崎いづ子氏報告
TEL 〇九二八 五八一ー二〇三九 五七二ー一五七三

サナモア光線療法のすすめ

— 手術と言われたら —

サナモア光線治療院院長 医学博士 宇都宮 正範

れいに治癒します。この事実、多くの愛用者が実際に体験され、ご存知のことと思いますが、案外、手術前後でサナモアを使用

はじめに

転んだり、ぶついたりしてできた傷口にサナモアを照射して、驚くほど早く傷口がふさがり、治った経験をお持ちの方はたくさんいると思います。実際にサナモアを皮膚の創傷部に照射すると、局所の感染を予防する

とともに、血液循環を改善し、消炎・鎮痛効果を発揮し、組織の再生を促すため、傷の痛みは和らぎ、き

すごい回復力に感嘆

横浜市 高田様

C型肝炎と診断されて7年程になります。昨年12月の検査結果で、肝臓に腫瘍ができていたらしい事が分かった際、実父にサナモア光線を薦められて、半信半疑で治療器を購入しました。また、ただ入院の順番を待っているのが辛く、サナモア光線治療院を訪れました。全身に照射してもらうのと同時に、身体の奥に光線が入り込んで行くような感じがします。リラクゼーションが、近頃流行っていますが、私には、最高のリラクゼーションに思われます。光線治療院は、入院するまでの間、週に2回、入院中も外泊許可がおりると、一目散に光線治療院へ行きました。宇都宮先生は、光線を照射していると、手術した後の縫合状態がとても良好になるはずだとおっしゃっていました。本当にその通りで、手術後、傷の消毒に5人程の医師達が交代で回診に来ましたが、すごい回復ぶりだとそれぞれ感嘆の声をあげていました。「術後1週間！うそだっ！すごいね！」と。また、看護婦さん達も「こんな患者さん見たことない。特別に何かやってたのですか？」とか「この病院始まって以来、5本の指に入る程の回復ですよ」と。院内の通路で、私の手術に関わって下さった先生方に出会うごとに、みなさんが「すごい回復なんだってね」と声をかけてくれました。入院中、同室の方は5人程いましたが、みなさん私よりも先に手術されているにもかかわらず、その方々よりも1週間も早く退院できたのは驚異としか言いようがありません。術後4か月程経ちましたが、検査結果は良好で順調に回復しているようです。傷の方もかなり平らになり、見た目もきれいになってきました。思いやりのない医療に憤りを感じていらっしゃる方、是非、サナモア光線治療院を訪れてください。こんなに人にやさしい医療があったんだと思うはずです。一人でも多くのサナモアファンが増えることを願って止みません。

手術前から始めよう

もし、何らかの病気で、手術

すると、術後の体力回復や手術創の縫合不全を予防する効果があることを、ご存知ない方がいらっしゃると思います。

を受け、術後の体力回復や手術創の縫合不全を予防する効果があることを、ご存知ない方がいらっしゃると思います。

検査を受け、悶々とした日々を過ごし、食欲も減退し、ふさぎこんだ状態で過ごして、健康状態を良好に保てるわけがありません。術後の縫合不全は、栄養状態が不良で、免疫力の低下した患者において、圧倒的に多く見られます。術前には、少しでも自身の治癒力を高める努力をすべきなのに、病院では、検査で、本人の治癒力を高めることが忘れ去られています。ですから、もし、医師から手術を宣告されたなら、是非とも、術前から光線療法を行うことを勧めるのです。その効果は、術後の回復過程において、きつと表れるはずです。

手術そのものは、医師が行うので、自分ではどうしようもありません。ただ、じつとその時を待つのではなく、光線療法ですしも治癒力を高める必要があるのです。そのことを、ご理解頂くために、今回、ご自身の貴重な体験を掲載することを快諾し、寄稿して下さいました高田様（横浜市在住）の体験談を掲載させて頂きます。

*
*
*

どんな人にも使えます

サナモアの適応症と効果的な照射法

病気の治療法には二通りの方法があります。病院の治療は、殆どの場合、病名診断に基づく治療で特異的治療法と呼ばれますが、サナモアは個体に具わった自然治癒力を高める治療で非特異的治療法と呼ばれる範疇に属します。

サナモアの理念は、生命を育んだ太陽の恵みを応用すること、で、生命力の根幹をなす生体の平衡状態(ホメオスターシス・生体恒常性)を調節し、健康体にする事です。したがって虚弱体質の改善から病気の治療まで広範囲に応用できます。すなわち病名が付くほどではなくても具合が悪くて悩んでいる人から、病名は付いて治らずに苦しんでいる慢性病の患者まで、どんな人でも使って効果のある、

副作用の心配のない治療法です。

「かけ過ぎ」は心配ありません

サナモアの愛用者から、「光線療法学」に書いてある照射時間を超えて光線をかけたいが、と問い合わせを受けることがあります。なまじ本に照射時間が書いてあるため、かけ過ぎは害になるのかと余計な心配をお掛けしたのですが、本の時間は最短時間で、時間に余裕があるならば本の時間の2〜3倍はかけた方が効果も早く出ることがしばしばあります。

実際、サナモア光線治療院で

はつらつさんには

ジョイントカーボン

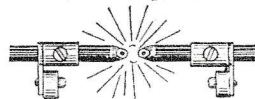
サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてきました。この点を改良したのが全

は、密閉された空間内で四台から五台の光線治療器を用いて45分前後照射するルーフ式マルチアーク療法を行っています。この際の照射時間を45分として単純計算すれば、四台で180分、すなわち3時間です。これでも「かけ過ぎ」ではありませんが、照射時間が長いだけ水分を失いますので水分の補給は大切です。他に疲労感、肌が赤くなつて風呂でしみることもある位で、光線皮膚炎を起こすことはめったにありませんが、起こしても使いつづけて皮膚が慣性を獲得すれば簡単に治ります。

自動光線治療器ははつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、時間に合わせてジョイントできるサナモアカーボンをつないでおけば、自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

なおはつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。

サナモア



Senamore

サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行。二、サナモア光線治療師の募集と育成。の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0053 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 3793-5281
(三七一) 二五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)